

売上機会の最大化と業務コスト削減を 実現するアクセシビリティ診断サービス



はじめに

■ご留意事項

本資料は、当社がご提案する事業や取り組みの方向性を関係者の皆様に共有し、今後の検討や協議の参考としていただくために作成したものです。現時点での想定や分析に基づいて構成しておりますが、外部環境や市場動向、関係各位との協議結果などにより、内容が変更される可能性があります。

あらかじめご了承くださいませようお願いいたします。

本資料に記載された情報・見解は作成時点で入手可能なデータに基づいていますが、将来の成果や結果を保証するものではありません。提案内容の実施にあたっては、環境変化・法令・制度等の影響を十分考慮のうえ、ご判断をお願いいたします。

また、本資料には当社の事業戦略やノウハウに関する機微な情報を含む場合がございます。受領された方は、当社の承諾なく第三者に開示・転送・複製されないようご注意ください。当社は、法令を遵守し、公正かつ誠実な事業運営を基本方針としております。本資料もその前提のもとに作成されています。

■本書に関する問い合わせ先

株式会社よむべえ

【本社住所】〒111-0053 東京都台東区浅草橋一丁目35番7号501号

所属	氏名	電話番号	E-mailアドレス
代表取締役	新井 利貴也	050-1791-2070	partner@yomube.co.jp



INDEX

1. エグゼクティブサマリー

2. 「ミエカタ」について

3. Appendix



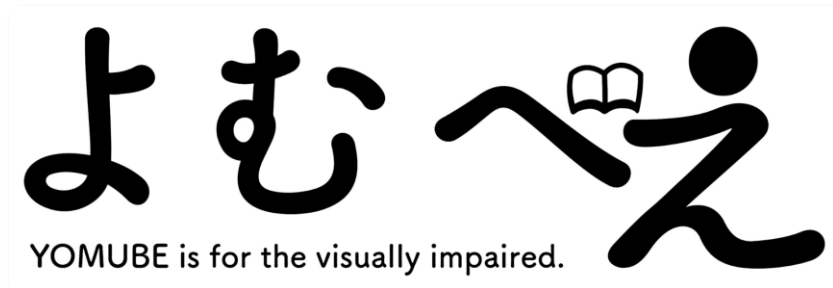
1.エグゼクティブサマリー



会社概要

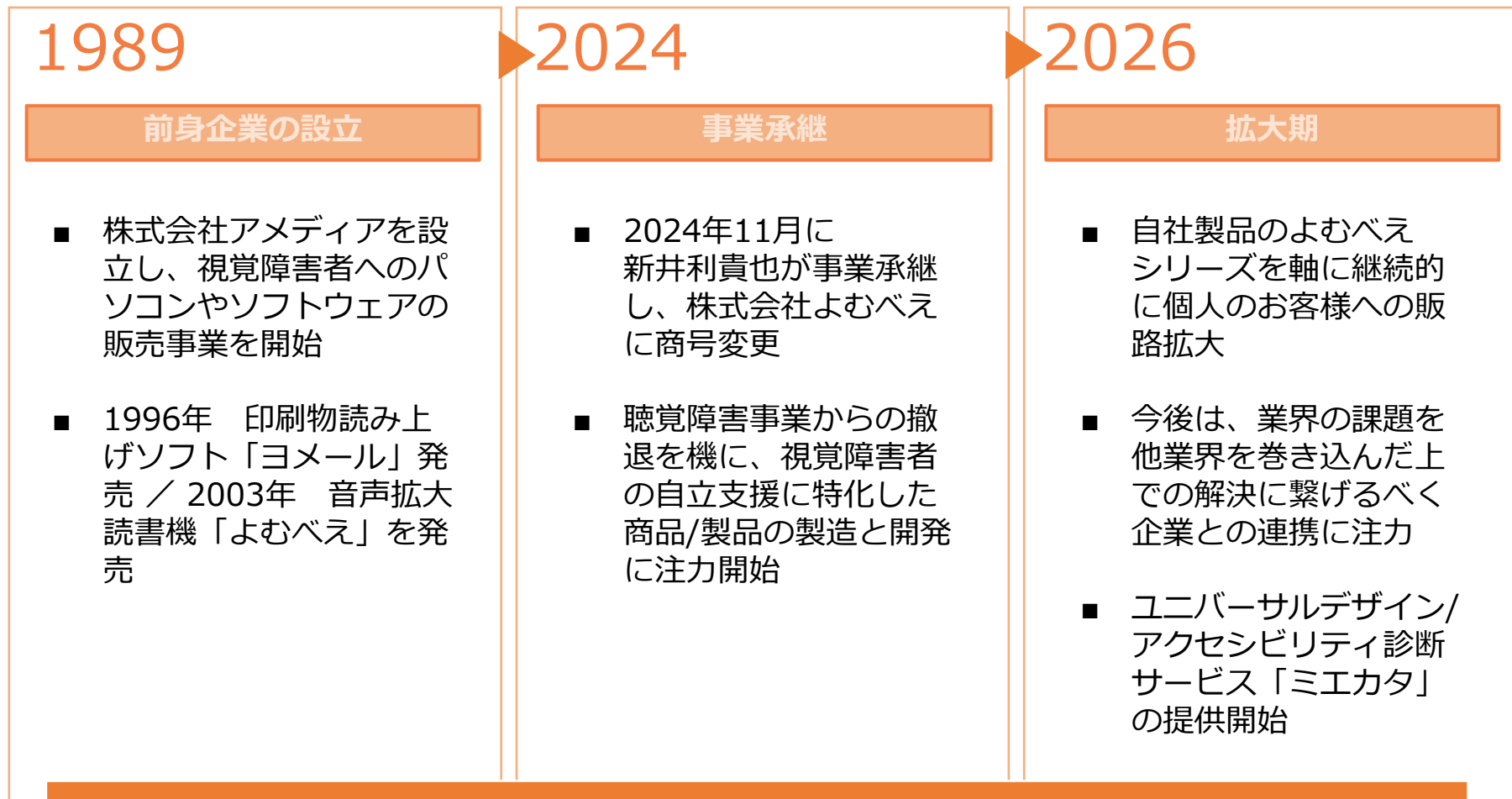
- 「よむべえ」は視覚障害者の自立支援に特化した企業となります

商号	株式会社よむべえ
所在地	東京都台東区浅草橋一丁目35番7号501号
役員構成	代表取締役 新井 利貴也
設立	2024年11月28日
資本金	100万円
事業内容	視覚障害者向けの機器・用具の製造・販売事業 ユニバーサルデザイン/アクセシビリティ診断サービス事業 歩行支援アプリの開発
従業員数	8名（役員および非正規雇用3名を含む）
企業理念	Vision:「障害者が主体となり、障害者の自立を支援し合う会社へ」 Mission:「読む・書く・歩くの自由を、すべての人へ。」 Value:「すべての人にフィットする柔軟さを追求する」



沿革

- 創業から37年間変わらず視覚障害者の自立支援に貢献しております



視覚障害者の自立支援に特化した総合商社として事業運用



ビジョン・ミッション・バリュー

- 私たちの存在意義は、テクノロジーで視覚障害者の「読む・書く・歩くの自由」を支えることです

VISION

「障害者が主体となり、障害者の自立を支援し合う会社へ」

障害を持つ一人ひとりが、支援の対象ではなく社会の担い手として力を発揮できるように。私たちは、同じ経験を持つ仲間同士が互いに学び、支え合い、自立へと歩み出す循環をつくり、共に未来を築いていきます。

MISSION

「読む・書く・歩くの自由を、すべての人へ。」

人が自分らしく生きるために欠かせない「読む・書く・歩く」という基本的な行動。私たちは、その自由をすべての人が等しく享受できる社会を目指し、日々製品やサービスを開発しています。

VALUE

すべての人にフィットする柔軟さを追求する。

年齢、障害の有無、使う場所や目的が異なっても、その人にとって最適なかたちで使えるよう、柔軟性のある製品づくりを大切にしています。「万人向け」ではなく、「あなた向け」であること。それが私たちの価値観の中心です



事業内容

- 最先端のAI・ICT技術を駆使し、視覚障害者の『読む・書く・歩く』の自由を実現する自立支援ソリューションの総合プロバイダーとなります

1. 自社製品事業



よむべえシリーズ：最先端のAI技術により、手書き文字の認識や多言語翻訳にも対応し、あらゆる印刷物を瞬時に音声化・拡大表示する高性能音声拡大読書器

2. 商品卸事業



視覚障害者向け支援機器の専門商社として、自社直販および広範な代理店網を通じて、個人・法人双方へQOLを向上させる最適なアクセシビリティ製品を供給

3. マップ事業



ナビレク：音声と振動による直感的なガイドで、視覚障害者の『一人で歩きたい』を叶える、バリアフリー特化型の歩行支援アプリ

4. UD診断事業



ミエカタ：視覚障害当事者の実体験に基づき、ウェブや製品の『不便』を可視化し、企業のアクセシビリティ改善を最適化する診断・コンサルティングサービス

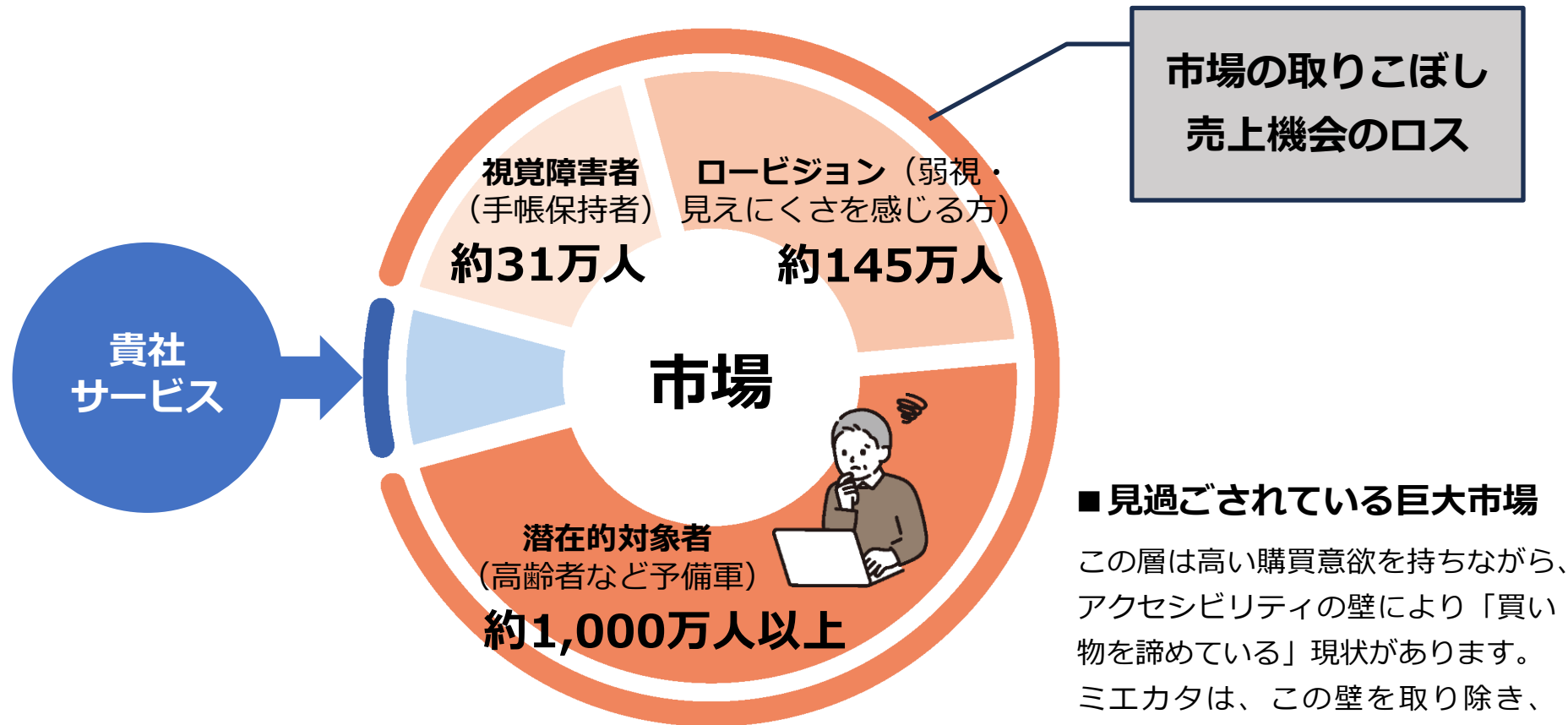


2. 「ミエカタ」について



見過ごされている巨大市場：対象顧客のボリューム

- 視覚障害者から高齢者まで、1,000万人規模の「見えにくさ」を抱える層が貴社の潜在顧客です



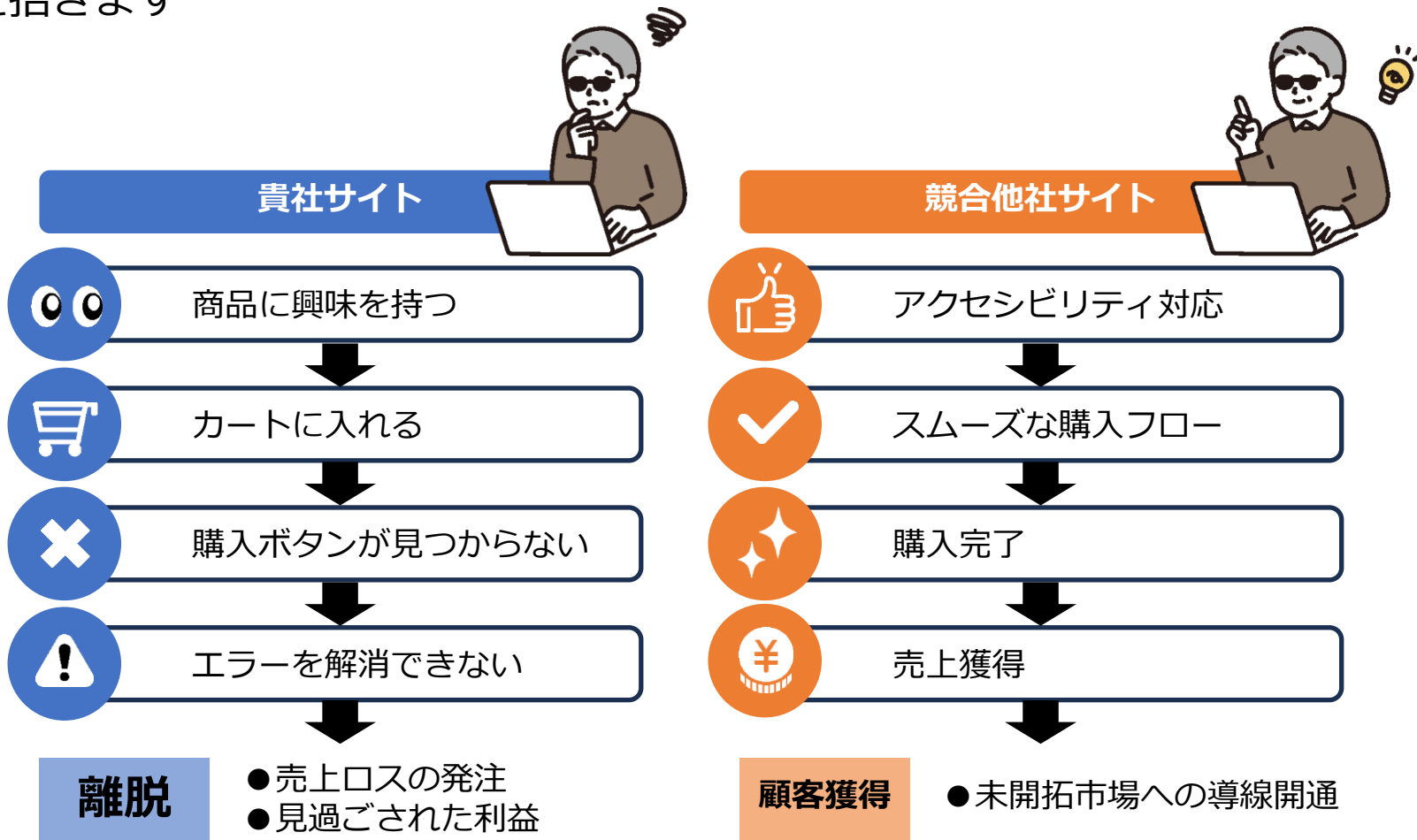
■見過ごされている巨大市場

この層は高い購買意欲を持ちながら、アクセシビリティの壁により「買い物を諦めている」現状があります。ミエカタは、この壁を取り除き、潜在顧客を確実な顧客へと変えます。



発生している「売上機会のロス（機会ロス）」の構造

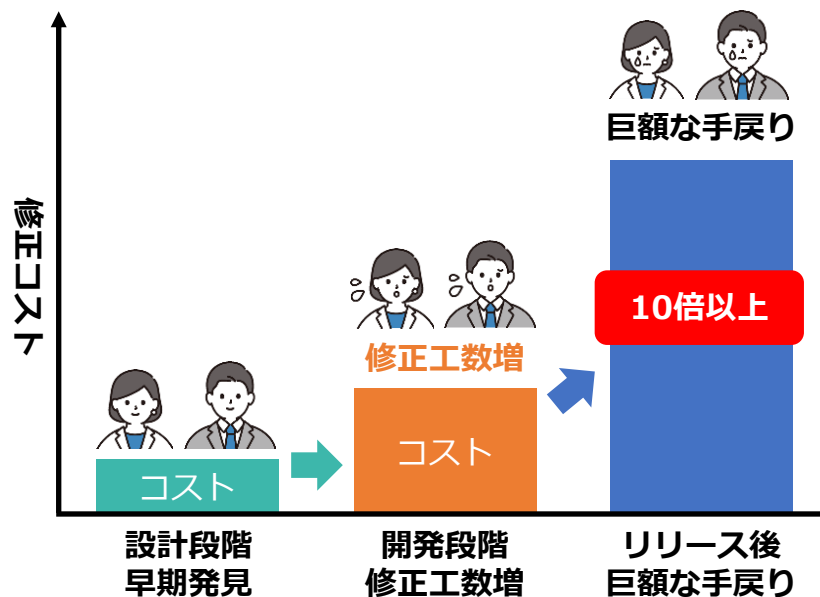
- アクセシビリティのバリアは、即座に競合他社への流出（クリックアウェイ）を招きます



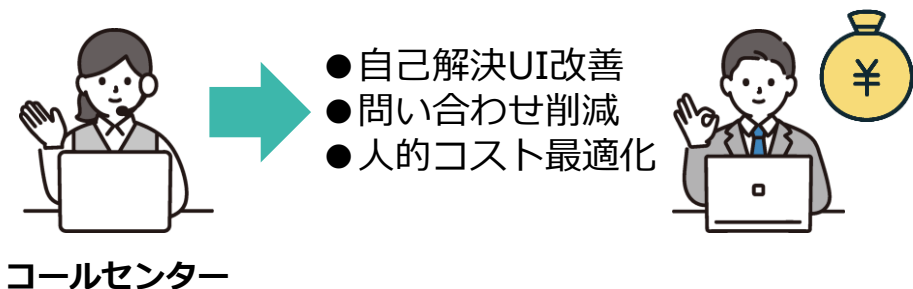
運用・改修コストの劇的削減

- 上流工程でのアクセシビリティ確保は、リリース後の巨額な手戻り改修コストを未然に防ぎます

■ 「後回し」のコスト増加



■ 早期診断による効率化



システムリリース後に発覚したバリアの修正は、設計段階での対応に比べ10倍以上のコストがかかります。また、自己解決を促すUI改善は、コールセンターへの問い合わせ削減など人的コストの最適化にも直結します。



「ミエカタ」の本質的な強み：当事者によるUX診断

- 視覚障害当事者が実際に操作し、UX（ユーザー体験）を阻害する「真の原因」を特定します

当事者視点のフィードバック

機械的なチェックや
晴眼者による
シミュレーション



見抜けなかった…

視覚障害者
当事者の視点



心理的な離脱ポイント

操作の詰まり

「できない」の可視化

実際の操作動画や
キャプチャを交えレポート



何が障害（バリア）
になっているか
「真の原因」特定

ミエカタ
ユニバーサルデザイン診断済マーク

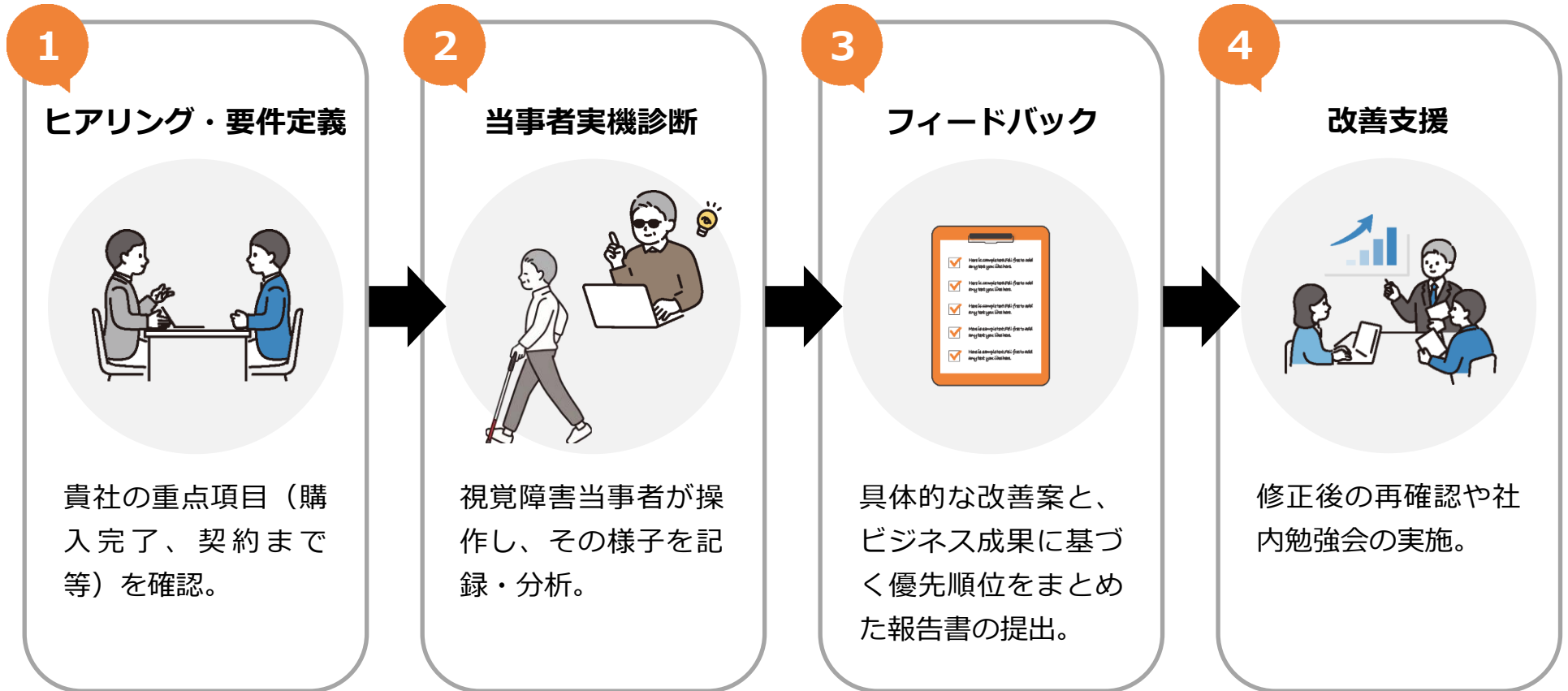


視覚障害者によるレビ
ューを受けたという
マークとなります。



ヒアリングから改善まで、専門家が伴走する4ステップ

- 貴社のビジネスゴールに基づいた診断を行い、優先順位を明確にした改善ロードマップを提示します



改善イメージの可視化（デモ/事例）

- 視覚障害者当事者が実際に操作し、UX（ユーザー体験）を阻害する「真の原因」を特定、改善のレポートを提出します

改善前

操作で詰まっている様子



改善後

スムーズな操作



他社事例の「操作で詰まっている様子」と「改善後」の短い動画またはキャプチャを提示します。
「ミエカタ」による当事者UX診断と改善案に基づき、UXを阻害する要因を根本から解消します。
開発コストを最適化し、誰もが「使える」サービスへのアップデートを伴走支援します。



全ての人「見える」社会、全ての人に「届く」ビジネスへ

- 貴社のサービスを、社会の変化に適応し続ける「選ばれるサービス」へアップデートしませんか

「守り」から「攻め」のUDへ



法的遵守を超えた
「標準化戦略」

未開拓市場への導線開通



視覚障害者・高齢者・
ロービジョン層

開発コストの最適化



手戻り修正コスト削減、
早期診断

持続的な価値向上



「ミエカタ」による
UX診断と改善

アクセシビリティ改善は一度きりの作業ではなく、持続的な価値向上です。売上口スを利益に変え、コストを未来への投資に変える「ミエカタ」を、ぜひ貴社の成長戦略にご活用ください。



お問合せ先

- 本資料に関するお問い合わせは下記までお願いいたします

電話でのお問合せ

050-1780-2070

受付時間: 10時~12時 13時~16時

メールでのお問合せ

partner@yomube.co.jp

会社名・氏名・メールアドレス・電話番号
をご記入のうえ、お問合せ下さい

<https://corp.yomube.co.jp/miekata-lp/>

当社のホームページでもお問合せが出来ます。



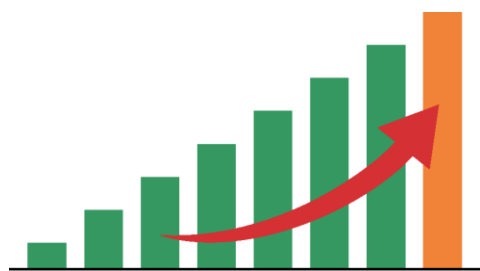
3.Appendix



シリーズ累計1万台突破・全国図書館への導入実績

- よむべえシリーズは、累計1万台の導入実績と、全国190箇所の図書館・公共施設が認めた確かな信頼性で国内シェアトップクラスとなります

■シリーズ累計販売台数



※よむべえシリーズ
2026年3月末時点
自社調べ

■日本全国の図書館・公共施設への導入



全国190箇所超

主要都市から離島まで、情報バリアフリーを推進

■選ばれる、確かな理由



公的機関における稼働実績
「障害者差別解消法」に基づく合理的配慮の提供に最適。



優れた操作性と耐久性
誰でも簡単に使えるUIと、長期運用に耐えるハードウェア。



全国サポート体制
専門スタッフと代理店による充実のアフターフォロー。



視覚障害者当事者による企画販売
視覚障害当事者の実体験に基づき、本当に必要とされる価値を企画し、社会へ届ける取り組み。

総務省「情報アクセシビリティ好事例2025」への選定

- 当事者ニーズを起点とした開発姿勢と革新的な機能が評価され、総務省より情報アクセシビリティに優れた先進的製品として選定されました

2026年4月、総務省が公表した「情報アクセシビリティ好事例2025」において、当社の音声拡大読書器「快速よむべえ」が選定されました。

・選定の背景：

本制度は、ICT機器のアクセシビリティ確保を推進するため、特に配慮が優れた製品や企業の取り組みを奨励するものです。当社の「読む・書く・歩くの自由を、すべての人へ」というミッションに基づいた活動が、国が推進するデジタル・バリアフリーの模範として認められました。

・評価されたポイント：

- 徹底した当事者視点：開発プロセスに視覚障害当事者が深く関わり、現場の「困りごと」を即座に機能へ反映させる一貫した開発体制。
- 高度な技術実装：AIによる複雑なレイアウト解析、手書き文字認識、多言語翻訳など、従来の機器では困難だった情報アクセスを実現した点。
- 社会実装への貢献：公共施設や教育機関への導入を通じ、障害者差別解消法に基づく「合理的配慮」の実効性を高めている点。

・今後の展望：

今回の選定を受け、今後も官民連携を深めながら、すべての人が情報を等しく取得・活用できる共生社会の実現に向け、製品・サービスのさらなる高度化に邁進いたします。



情報アクセシビリティ
好事例



企業版ふるさと納税制度を活用した地域支援

- 自治体とのパートナーシップにより、寄附を通じた図書館のDX化と情報バリアフリー環境の整備を推進しております

■三者連携による地域課題解決スキーム



■具体的な活用事例と実績



図書資料・サービスの充実

長野県・日野市にて「快速よむべえ」導入による自立読書環境整備を支援。



自治体DXの推進

田川市の「広報DX事業」へ寄附。IT・AI技術で地方創生を多面的にサポート。



企業のメリット最大化

寄付金が具体的な成果（視覚障害者支援）に繋がるスキームを提案。

障害者差別解消法への対応について

- 2024年4月の法改正により、誰もが等しく社会参加できる『共生社会』の実現に向け、民間事業者にも障害による障壁を取り除く『合理的配慮』が法的義務となりました

■ 法改正の主旨：努力義務から「義務」へ

2021年に成立した改正障害者差別解消法が、2024年4月1日より全面施行されました。

これにより、民間事業者（企業、店舗、NPO等）による障害者への「合理的配慮の提供」は、従来の努力義務から法的義務へと変更されました。これは、障害の有無に関わらず、すべての人が等しく社会参加できる「共生社会」の実現を法的に後押しするものです。

■ 合理的配慮が求められる理由

日常生活や社会生活において、障害のある方は、社会的なバリア（障壁）によって機会を制限されることがあります。

事業者がこのバリアを取り除く「合理的配慮」を行うことで、障害のない方と同等の機会を保障し、差別を解消することが本法律の目的です。

■ 事業者求められる3つの視点

公的なガイドラインでは、合理的配慮を検討する際、以下の要素が重要視されています。

1. 建設的対話の実施

障害のある方からの意思表示があった際、事業者と本人が対話を重ね、お互いに理解し合いながら最適な解決策（代替案を含む）を模索することが求められます。

2. 過重な負担の検討

事業の規模や人的・体制上の制約に照らし、対応が困難な（過重な負担がある）場合は、理由を説明した上で、可能な範囲での対応を行う必要があります。

3. 環境の整備

個別の合理的配慮をスムーズに行えるよう、あらかじめ物理的なバリアフリー化や、職員への研修、社内マニュアルの整備といった「環境の整備（努力義務）」に努めることが推奨されています。

■ 対象となる分野

本法律は、教育、医療、福祉、公共交通、金融、小売、サービス業など、日常生活および社会生活全般にわたるすべての事業分野が対象となります。

引用：

内閣府：障害者差別解消法リーフレット「合理的配慮」の提供が義務化
政府広報オンライン事業者による障害のある人への「合理的配慮の提供」が義務化
内閣府：障害者の差別解消に向けた理解促進ポータルサイト<https://shougaisha-sabetukaishou.go.jp/>





「読む・書く・歩く」の自由を、すべての人へ。

「読む・書く・歩く」という基本的な行動。よむべえは、その自由をすべての人が等しく享受できる社会を目指し、日々製品やサービスを開発しています。



